



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2022

11

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 10月月例会	19
川柳吟行会「ぼ」	24
十和田たてがみ川柳会 9月句会報	28
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	18
Infomation	31～

カンテラ

むさし

パソコンが壊れたので新品を買いました。

友人にセットアップしてもらったのですが、その後の、自分なりに使うためのソフトの設定がまだこれからというところ。

この文章も慣れないパソコン、慣れないワープロ設定で打っているので変なところがあるかも知れません。

それは、パソコンのせいですので悪しからず(笑)

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

弱音はく段々夢の軋む音	村上てる
つゆ草に陣地とられて遠回り	熊谷冬鼓
枯れるまで添い寝を迫る女郎花	坂本清乃
天高く自由時間が泳いでく	辻井洋子
本日貌捨ててくる終電車	まきこ
青空に津田左右吉と書いてみる	葉閑女
耳許にコスモス飾り踏みだそう	吉田州花
バランスが崩れ水捌け悪くなる	三浦蒼鬼
こぼれ萩お墓はどこへ入ろうか	吉見恵子
どうルビぶつても胃もたれしてしまう	きさらぎ彼句吾

ここからは尻尾を捨てて逃げのびる

斎藤泰子

斎藤泰子さんは「尻尾」をお持ちでしたか。ところで、人間にとって「尻尾」とは何なのでしょう。広辞苑で「尻尾」を引くと「①獣類などの尾。②垂れさがった細い物や長いものの終りの方。また、順位の末の方。」としか出てきません。ネットで調べると、動物の「尻尾」は魚の尾びれが変化したもので、疾走するときのバランスを取ったり方向舵の働きがあるそうです。馬などは、虫を追いはらう道具として使っています。泰子さんは、そんな大事な「尻尾」をトカゲのように切り捨てて相手の目をくらまし「逃げのびる」つもりなのでしょう。泰子さん、何から逃げているのだろう。

B群

7・3に構えた鳩に睨まれる	石橋芳山
非正規雇用ですが踊りましょっか	鳴海賢治
鈴は波の波は鈴の音がする	安藤なみ
冷え性の森が木洩れ日を孕む	笹田隆志

飛びましよう今見たもの抱きしめて	ひとり静
束ねた紐がこんなに太くなりました	守田啓子
ドクダミの白で待ってることにする	米山明日歌
焼き芋で復習劇を組み立てる	土田雅子
飲み込んだグミの小さな黙秘権	須藤しのすけ
襟足は直球だけを待っている	芝岡かんえもん

芝岡かんえもんさんの「襟足」って、見たことないなあ(笑)。美女の「襟足」は美しいに決まってるけど、かんえもんさんのはどうかなあ…(汗) 私は昔『襟足に Dank シュートが決まらない』という句を作ったことがあります。私は相手にシュートするのですが、かんえもんさんはボールを「待っている」。しかも「直球だけを」。大谷翔平選手の投げるツーシームとか来たら受けきれないもんね。

C群

骨盤が直進して行く右カーブ	小野五郎
父はとんぼ母は揚羽になりました	柳本恵子

ぢいさんの有明月は泣き虫で
ゴム通し捜しにナ行まで歩く
朴の葉の皿にオットセイの顎

奈良一艘
岩根彰子
宮井いずみ

小野五郎さんは走ってるのかな？この句を読んだとき「カーブ」を「直進して行く」って変だなと一瞬思いました。でも、「カーブ」をきれいに曲がっていくためには「骨盤」をカーブの接線に真っ直ぐ向けて行かないとだめかも…と思い、意外にあっさり納得したのでした。「骨盤」って、嘘をつけないからね。

柳本恵子さん、お父さんとお母さんの扱い方に差がありますね。お父さんの場合は「とんぼに」と大雑把で、お母さんは「蝶に」ではなくきちんと「揚羽に」と書いています。「父はとんぼに」って、まさか「極楽とんぼ」じゃないでしょうね（汗）そうなると思います差がついてしまいます（笑）で、お母さんはやっぱり「黒揚羽」ですか。奈良一艘さん、「じいさん」じゃなく「ぢいさん」って、何かにこだわってますな。「ちとらクソジジイなんかじゃねえんだ！」って辺りかな？（笑）「有明月」は、

夜明けになお空に残る月のこと。「有明月は泣き虫で」なんて書いてるけど、「ぢいさん」、つまり自分が「泣き虫」だってことじゃないか。素直じゃないんだから（笑）

岩根彰子さん、今「〇行」にいるんですか？「ゴム通し捜しに」って、何にゴムを入れようとしているの？もしかしたら、心のゴムが伸びてしまったので取り替えようとしているのかも…。「な」で始まる言葉には「為す・涙・泣く」などがあつて愛情などの気持ちを表現するって話があるけど関係ないね。うううう。

宮井いずみさん、「オットセイの顎」にはびっくりしました。世界一深く透明なバイカル湖にすむバイカルアザラシは、えさの魚がよく見えるように目を大きく進化させ、大きくなりすぎたせいで顎を動かす筋肉が小さくなってしまったらしい。あ、関係ないですね。「朴の葉」には抗菌作用があつて、包むと食べ物の日持ちし、良い香りが移っておいしくなるらしい。いずみさん、希少な「オットセイの顎」を食べようとしてるんだね。で、より美味しく食べるために「朴の葉の皿」にのせているんだ。どんな味がするんだろう。

おかしき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅10月月間賞

ロシア風おこそ頭巾の装甲車

小野五郎

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

空き部屋が蜂の移住に狙われる
物価高消化不良が治らない
楽しみはとっておけない豆大福
あの頃は 比べてるのは20年前
秋色をまといすっかり旅気分

先月号のお気に入り
知り合いの知り合いという落とし穴 熊谷冬鼓
知り合いの知り合いは知り合いじゃないんだよね。

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

鈴は波の波は鈴の音がする
拒めずにエビアンと棲む異空間
枝越しに雉が眺める鹿威し
特上の肝は脂肪付きでくる
冷蔵庫に酒はたっぷりオケ合わせ

先月号のお気に入り
ポーズ取らない人だっているグリコ前 宮井いずみ
そうです。

上村夢香【うえむらゆめか・山口県岩国市】

十六夜の月ばかり追う球場で
ここにいるよいつもの土手に曼殊沙華
いつの間に火をつけたまま消えた人
許さない再稼働とは情けない
郷ひろみの若さを少しくださいな

先月号のお気に入り
作戦中止 助けてほしい飴と鞭 笹田隆志
世界中から戦争をなくしてほしい

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

処方箋どおりに年を取る肋
骨盤が直進して行く右カーブ
前頭葉久しく朝焼け見ていない
背中から古いベッドが剥がれない
消防署です種火隠していませんか

先月号のお気に入り

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

7・3に構えた鳩に睨まれる
エゴサーチ辿ればスズメの嘴
落日を前にニヒルに染まる空
ハッターリが強いカリカリのペーコン
禁猟の森で笑いが零れだす

先月号のお気に入り

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

ゴム通し捜しにナ行まで歩く
チョコちゃんの山椒擂粉木粉吹き芋
唇はギムミーチョコである海月
羊水は白詰草で包囲せし
水掻きのあるやなしやのものがたり

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

仕分けされ尽して踵だけぽつん
どうルビふつても胃もたれしてしま
心だけはノマド病床のほたる
くちびるに押し残された白い闇
言霊を放つしみ込むまで放つ

先月号のお気に入り
間違っここにいるのかもしれぬ ひとり静
夜空見上げながらそんなことばかり思っていました、子
供のころからずっと、未だに。

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

つゆ草に陣地とられて遠回り
来る年を信じて花の種を選ぶ
白湯注ぐ徐々に慣らしていく時間
血圧計ちよつと大げさすぎないか
自転車です5分シソの実摘み5分

先月号のお気に入り
振りかけにしようか蝉の大合唱 岩根彰子
すわっ！いよいよ昆虫食かと思っただけど(笑)

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

言葉にするとちよつと違っているような
コロナにも罹る畏にもひつかかる
目が覚めるきつと極彩色の中
秋らしく少し太らせ朝の風
ここからは尻尾を捨てて逃げのびる

先月号のお気に入り
最期ではなく川にうまれるところ 守田啓子
そう言われると安らぎます。願わくば源流の一滴に・

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

むかい風ふんばりどきと茄子の花
あつち向いてホイグラジオオラスの片頭痛
切り札をとられ白萩黙秘する
枯れるまで添い寝を迫る女郎花
鳴かないと決めた鬼灯十三夜

先月号のお気に入り

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

核弾頭を冷ますキムチと線香花火
冷え性の森が木洩れ日を孕む
秋桜の種を産んでる雨宿り
単三の電池で動く大魔神
天むすが忘れられずに鯛焼く

先月号のお気に入り
ざわわざわわ肩胛骨のナイル河 岩根彰子
ナイル川はざわわざわわと流れるんですね

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

電線で蹴上がりしてる雀の子
麓には転げ落ちてる招き猫
襟足は直球だけを待っている
我が罪を少しちらした混ぜご飯
いま出ますふところにいる満月が

先月号のお気に入り
人として正しく転倒した…のかだ 奈良一艘
これは禅問答でしょうか。ただ答えられません。

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

ヨガ呼吸伝えることの難しさ
ヨガ教室六十七をかき回す
この指生まれ朱美流のヨガタイム
腰痛持ち初心者ヨガの難しさ
五年後の夢は山小屋で暮らす

先月号のお気に入り
朝毎に替わる私という基準 吉田州花
替わることは大切。昨日より成長したい。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

母親の空欄をすべて埋めよ
18の僕が何か言いたそうな今日だ
性別が「母」と「父」だと思つてた
「親ガチャ外れた」と言われる身として
次のうち正しくない父親を選びなさい

先月号のお気に入り
否定も肯定もしない夜のうなじ きささき彼句
いちばん判断が難しいパターンのやつですね。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

飛行機と言えばやつぱりアヒルです
朝一で届くロマンス詐欺メール
飲み込んだグミの小さな黙秘権
退屈な飲み会アフターが終わる
蜂蜜とレモン 君に足りないものどうぞ

先月号のお気に入り
それぞれの高さで揺れる船溜まり 安藤なみ
頂点から底辺まで段階を設定するのは人間あるある。そ
うですよ、金子みすゞさん。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

道くさの草のあたりに思いやり
俺の血は酒で出来てるかも知れぬ
iPS 皺がなんだか減ってきた
正直な写メは腹黒まで写す
節穴を覗いてみよと誘う罌

先月号のお気に入り
花柄のLINEが届く午前四時 須藤しんのすけ
明け方に届く花柄のLINEなんて、どんなデザインな
んだろう。興味深い…。

達毘古【たつひこ・富山県高岡市】

亡母の琴弾いてジャイアンリサイタル
孤独極めて風になる安吾教
抱きしめてあげられないの僕のこと
自意識とジャックナイフの星月夜
神仏の悲苦も漂う世界かな

先月号のお気に入り
名をつけてひとつの箱になる途中　ひとり静
僕は既に箱なんです、名をつけるという発想はなかつたです。

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

紅を付け明日へ盛って行くつもり
尽きない曲がり角岩木山噴射
沈黙50年手を握ったまま
本筋を話せない人弱い人
守って来た子に守られる幸せ

先月号のお気に入り
不器用な愛　素足で走ってる　柳本恵子
着いけど　いい感じで好きかも

土田雅子【つちたまきこ・青森県青森市】

ゆらゆらと昇っていった原発巢
敵役演じ終え子宮の火照り
焼き芋で復習劇を組み立てる
遠回りもショートカットもしない現実
ちやほやとオリーブオイルかけておく

先月号のお気に入り
日記には足のことだけ書いておく　米山明日歌
足のことだけでも書ききれませんよね

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

思うほどひとりが好きなのじゃやない
痛みにも無反応です靴の底
すり抜けていく無呼吸症候群
新車買うカラ傘お化けの有頂天
新品のまま大人まであと三歩

先月号のお気に入り
集まってカサブランカがするゲップ　岩根彰子
つい見入っちゃっね、そしてやりそうね。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

破産するまで幸せをつぎ込む怒
満喫したか死ぬますか？イロハニホ
マインドコントロール顔ヌートリア
嬉しくせにいやだくつてすっぱん
県民になれました　黄色突進

先月号のお気に入り
満月を盗んだ夜は笑わない　むさし
訝しき生睡をのむ行為規範。何だかよくわかりませんがイロハニホ推測させる。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

頓服が効いて祭りも遠くなる
焼き茄子の世界モナリザの微笑み
どしや降りを選んで見たら光るもの
天高く自由時間が泳いでく
無知の知を知ってもカラスカーと鳴く

先月号のお気に入り
したたかな風を一覧表にする　まきこ
何かの時に役立てたい、見ておきたい。貸して

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

ねたきりのてれびに女王の柩
お尻拭きの身になってみなよオマエ
寝ぼけまなこの舟がピコンと浮き上がる
煮くずれて統一教会的新婚初夜を
ぢいさんの有明月は泣き虫で

先月号のお気に入り
あなたではないバナナが悪いのです　鳴海賢治
ですよ。だと思っていました

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

約束の日でしたトマト目を開ける
そばに在るだけであんよが火照りだす
大切な用事済ませた雨が降る
非正規雇用ですが踊りましようか
枚数を減らして今を乗り切るか

先月号のお気に入り
半ドンだった自転車だった夕暮れた　守田啓子
今日一日の、有り様だけとはかたはずられないものを、感じました。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

考えているのは絵の中のカラス
飛びましよう今見たもの抱きしめて
ひと言の重き斜めに雨が降る
半分こした夏空は甘すぎる
合戦を今も引きずる千本鳥居

先月号のお気に入り
前触れもなくやってくる夏野菜
夏野菜はいっぺんに取れるから、本当にすみませんとい
いながら配っています。 まみどり

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

おまかせのかみがたでゆくゆめの先
ウィッグのせちよつと昔のぼくに会う
1ℓのガソリンで行く花畑
歯車が狂いだしたわ飯にする
蝋燭が着火するまでキスをする

先月号のお気に入り

まきこ【まきこ・青森県青森市】

どう生きる誰と生きるか最終日
私たちおんなじワルの匂いする
えいやつと胃袋通過正義感
お愛想は得意最初はパーを出す
本日の貌捨ててくる終電車

先月号のお気に入り
発射台の上で南京玉簾
怖い、笑える さすが五郎さんです。 小野五郎

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

渋皮に手こずりながら栗ごはん
旨さとは指の痛さに比例して
まだ青いイガで気配り足りぬまま
沸々とこみ上げてくる記憶力
白日に晒せぬままに落し蓋

先月号のお気に入り
手も口も出ずまい今は待つ時間
吉見恵子
わかつてはいるが、つい出たくなってしまっ、我慢の
しどころです。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

週二日自己満足と揺れている
バランスが崩れ水捌け悪くなる
アナログの舌が転がすオムライス
午前二時翼が折れる被告席
わたくしがテイクアウトをされる秋

先月号のお気に入り
昨日とは違う音出し生きてみる
まきこ
今日は昨日よりきつといい音が出ますよ。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

スルーする男へ沼をぶちまける
周波数あつめる椅子の脚カバ―
シーサーの引つ越し新月と決まる
朴の葉の皿にオットセイの顎
ト書きで水増し日祝時刻表

先月号のお気に入り
鼻穴が無数に落ちていた舞台
むさし
そんな月の表面みたいな舞台だったらアイドルたち踊れない
じゃないですか。いや鼻穴は踊り疲れたアイドルたちのなのか。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

五十過ぎ答え慌てぬ癖が着く
夜が明けるチャンスを二度と逃すまい
ロダンだって笑顔になつてみたいはず
砂浜で海に恋したラムネ玉
登っては滑り落ちてる普通の壁

先月号のお気に入り
昨日とは違う音出し生きてみる
まきこ
その音が日々明るくなるよう頑張ってみます。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

目印の赤い毛糸が見つからない
目の前を会話の渦が通り過ぎ
余白だらけのスケジュール帳埋まらない
嘘だらけの迷宮出口なんか無い
冥途から母が時々会いに来る

先月号のお気に入り
ミサイルをウターンさせるおまじない
むさし
そんなおまじないがあったらいいですね。早く戦争終わ
りますように！

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

ウオーキング野辺のめぐみの蓬餅
弱音はく段々夢の軋む音
眠れぬ夜せつせと書いている遺言書
どれみても悲し顔のマトリョーシカ
なに欲しい消えない夢が欲しいです

先月号の
お気に入り

両の眼を閉じればいつも母の笑い 上村夢香
本当に母のありがたさが身にしみます。私も子等が私を
どうみているのかと思っています。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

それぞれの色を着替えて山の秋
ざっくりと楽しいことだけ考える
こすもす揺れて忘れ上手になりました
父はとんぼ母は揚羽になりました
裏道ばかりおしえてもらおう日暮れ時

先月号の
お気に入り

正論は未だ音信不通です まきこ
まだまだ終わらない戦争、正論は届かないですね

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

戦争とはほんにこの世の以下余白
焼きナスの焦げ目滴り落ちる余生
疑問符を持ちかえる疲弊の戦士
束ねた紐がこんなに太くなりました
有り余るトレモロをいただく晩年

先月号の
お気に入り

桃井かおりのうつる頬杖土偶 四ツ屋いずみ
桃井かおりの魅力は土偶に似てるところ?!

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

行く雲へやっぱり手話をしてしま
本題に入る月光射してから
十五夜へススキ我が物顔になる
トンボ飛ぶ生まれた池に感謝して
教室が狭すぎましたああ昭和

先月号の
お気に入り

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

秋深し姫は七つの宮参り
時により辞書は軽薄怠け者
青空に津田左右吉と書いてみる
同名の所以で聖地・宗隆寺
ゆく秋を隣の石路が独り占め

先月号の
お気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

行つてきまあすニコニコマーク貼り付けて
急げ急げうつすらと明るい道だ
ワー揺れるワー倒れるっ…………
胴体の長い幼虫、山手線
拡声器バカバカバーカなんて夢

先月号の
お気に入り

どうしても演歌になつてしまふ恋 米山明日歌
なぜでしょう、演歌がしつくりくる今日この頃です

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

萩すすき恋の進化を生ききいて
嘘も本気も一気に消化できる桃
はためかす幟九月はすぐ終る
耳許にコスモス飾り踏みだそう
幸せはころころプチトマトの湯むき

先月号の
お気に入り

付箋貼る傾きだした部位に貼る 熊谷冬鼓
貼ったことさえ忘れられたらいいけれど。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

朝の音輪切り半月いちよう切り
白黒をつけて無口な猫じゃらし
雨好きとはもはや 線状降水帯
こぼれ萩お墓はどこへ入ろうか
椋鳥のいちじく食堂盛況中

先月号の
お気に入り



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

OKAJOKI ZERO LINE

課題と選者 (2句詠・共選)

題：『色』

2/28 〆切

選者

須藤しんのすけ (青森県)

奈良一艘 (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、**守田啓子宛**にメール送信してください。<送信先アドレス：moriko@okajoki.com>

投句料 (※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円 (発表誌呈) *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

先月号の
お気に入り

星めぐり終えて絵本へ戻す空
素敵な情景にうつとり

葉閑女

米山明日歌

【よねやまあすか・静岡県長泉町】

十三階四号室でまつ答え
まつさらなノートに君を泊まらせる
静脈の凍えにウオッカあげてみる
シャンプーとリンスの夜を終わらせる
ドクダミの白で待つてることにする

先月号の
お気に入り

置いていった嘘を星型で抜いてみる きざぎ夜句音
すごくいいアイデアだと思います。まねしてみます。

四ツ屋いずみ

【よつやいずみ・北海道札幌市】

ドヤ顔の牛乳かんのミカンなり
ハレの四隅にありがとうのミルフィーユ
あくまでもカーナビ示す落武者の里
やっぱりね愛し米粒断食明け
燃え尽きて9月蓼にさえあおられ

むさし

【むさし・青森県蓬田村】

襟足の熊野古道とスズメ蜂
ニキビだらけだった月光仮面だった
「陰性か？」なんて女王陛下の屁
コオロギが戦争やめろと鳴いている
山頂で飛ぼうとしてる亀の群れ

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から
好きな作品とそれに対する
簡単なコメントもお寄せください。

深艘心理

一匹の羽虫が付きまとう

ふふ

安藤なみ

(会員雑詠集 無人駅9月号より)

とつくに定年退職を迎えた夫は再雇用制度を活用し、嘱託として週3で仕事に出てはいたのだが、それも5年を過ぎた今、嘱託も引退して毎日家にいる。

「なあ、秋物の薄いカーデイガンはどこにあるんだ?」「買い物に付いてってやるるか」「秋祭り面白そうだから行ってみないか」…と、家事が終わった後には、ゆつたりと読書やTVを見て過ごしたい妻にとっては何にかと五月蠅い。亭主元気で留守がいいとはよく言ったもんだとつくづく思う。というのが長い前段。

しかし、掲句はこう続く「ふふ」と…。
実はこの「ふふ」こそが曲者。作者はまるで羽虫のように付きまってくる夫を決して好意の眼差しで見ているのではない。好意を持って見ているのならば「ふふ」

ではなく「うふふ」になる筈なのに「ふふ」なのだ。若い頃は「うふふ」だったろうが今の「ふふ」は多分「ふふん」に近い。うーん、ちよつとこんがらがってきたが…つまり「どう?今になって私の有り難さが分かった?」買物だの秋祭りだのケチくさい事言っていないでヨーロッパにでも…いや、せめて日本一周して、青森のおかじょうき句会にでも寄るうか?くらい言えないんかい」と、まあ少しお怒りなのである。今や夫婦間における優位性は完全に妻の方に移った。

ふむふむ、なるほどなるほど…と一艘の妄想はどんどん膨らんでゆく。

このコーナー「深艘心理」から「妄艘心理」とでも変えた方が良さそうだ。アツハツハ

したがって

10月1日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(7名)

守田啓子・熊谷冬鼓・渡邊こあき・小野五郎・奈良一艘・葉開女・むさし

▼投句者(21名)

米山明日歌・安藤なみ・達毘古・旅男・吉田吹喜・柳本恵子・鳴海賢治・須藤しんのすけ・田中薫・村上あつこ・芝岡かんえもん・吉松澄子・まきこ・城後朱美・きさらぎ彼句吾・宮井いずみ・まみどり・笹田隆志・笹田かなえ・岩根彰子・坂本清乃

おかじょうき川柳社

10月例会

席題『流』

青森県三沢市 守田啓子 選

【佳作】

月下美人本流に乗れません
蒸しタオルで隠す流れそうなとこ
前世紀の水が流れるクレムリン
流れ出た秘密大きな渦になる
十月も金釘流で闊歩する
流れ藻がニンゲン臭い息をする
濁流が無数に流れこむ左脳
流れ着く先はススキカコスモスカ
水飴のまま落がんになれずいる

渡邊こあき

熊谷冬鼓

小野五郎

葉 閑女

葉 閑女

奈良一艘

むさし

熊谷冬鼓

渡邊こあき

【特選】

流言蜚語に流されてゆくヌーの群れ

↑ヌーの群れが効いている。

奈良一艘

席題『流』

青森県青森市 熊谷冬鼓 選

【佳作】

十月も金釘流で闊歩する
濁流が無数に流れこむ左脳
変態の途上で涙が溢れ出る
鈍色の流れを変える時刻表
難病指定に付きルビコン川は渡れない
前世紀の水が流れるクレムリン
仏壇の奥の真赤な乱気流
流れ藻がニンゲン臭い息をする
流星や奈落の底と鍋の底

葉 閑女

むさし

小野五郎

守田啓子

奈良一艘

小野五郎

むさし

奈良一艘

葉 閑女

【特選】

流言蜚語に流されてゆくヌーの群れ

↑プロバガンダに洗脳されたロシア国民を思った。

奈良一艘

宿題『らんらん』

青森県弘前市 奈良一艘 選

【佳作】

らんらんと生きて空しくなっちゃった
らんらんと目くばせしては待つ夕陽
らんらんのらの所からユートピア
春の指らんらんらんと狂つてく
この机はらんらんとして眠れない
子犬系男子ププ午後六時
奥目だと言われたことは有りません
不審者は明るい声で寄ってくる
弱点はないのよらんらんマンジュシャゲ
さくらんぼひとつさみしい日のランチ
らんらんと鬱の字ばかり長い夜
上弦の足跡を見たもう寝ます
帰れなくなっても知りませんからね
らんらんをなめるとすればチョコバナナ

守田啓子

まきこ

柳本恵子

米山明日歌

笹田隆志

須藤しのすけ

安藤なみ

熊谷冬鼓

まきこ

吉松澄子

笹田かなえ

鳴海賢治

須藤しのすけ

芝岡かんえもん

焼肉屋「らんらん亭」の裏表紙

らんらんを光と闇にわけてみる

落花の間際までスキップしてた修羅

旧姓で呼ばれらんらんつて感じ

蝶が舞う荒地地ただいまスナイパー

ランランとカンカン 国葬とは何だ

【五客】
忘れるもの忘れ今日からポップコーン

光薙閨節技は得意です

帝王は昼の脂もテカリけり

ラメ入れてはる今年の秋桜

迎え撃つ覚悟ができて脱いでいる

【人位】
慎みを忘れ光ってしまったわ

【地位】
物見遊山で生まれてきたわけよ

【天位】
月らんらん令状拒否で猫になる

↑月のらんらんと猫の目の光るさまがダブって面白い句になった。

むさし

米山明日歌

きさらぎ彼句吾

吉松澄子

鳴海賢治

むさし

きさらぎ彼句吾

岩根彰子

旅 男

岩根彰子

まみどり

吉松澄子

小野五郎

坂本清乃

宿題『落』

青森県青森市 葉閑女 選

【佳作】

落ち込んでる暇はないのよ要介護
 お土産は決めてる穀付き落花生
 前髪をつかみ損ねて現在地
 落し蓋の隙間からでも出てゆくわ
 百曲目でカミナリ落ちたのど自慢
 落雁の鯛の目ギョロリ嘗めんよ
 野うさぎはびよんびよん下落した株伽
 言い分けを煮込んで朝の落とし蓋
 コンニヤクの骨が落ちてた日曜日
 どこにあるんだ一昨日掘った落とし穴
 落胆の音をかぶせて微塵切り
 ドローン落下思いあがっちゃいけないぜ
 落とし穴三つ仕掛けて朝ご飯
 母を発つ木の実の落ちる音立てて

城後朱美
 岩根彰子
 渡邊こあき
 守田啓子
 笹田隆志
 笹田かなえ
 鳴海賢治
 坂本清乃
 奈良一艘
 むさし
 芝岡かんえもん
 渡邊こあき
 まきこ
 きさらぎ彼句吾

失恋の鎧引き摺る落武者よ

修飾語落とせば寒い人だった

そこいらじゅうに落ちておりますプロポーズ

血の色は無罪落書きなら続く

尼僧百人コロシテ青蚶は墮ちた

帽子だと思つていたら落とし蓋

【五客】

どん底を知らないいつも吊るされて

駆け落ちを誘われそうな十三夜

大統領の台詞がトイレに落ちている

すべい台終着駅は日本海

淋しくはないが落ち葉を聴いている

【人位】

チューリップ激しく揺れて大落暈

サヨナラは言つたか夕日沈んだか

【地位】

落丁の桃は夕日になりました

♪ 童画のような景色にうつとり。

芝岡かんえもん
 米山明日歌
 芝岡かんえもん
 須藤しんのすけ
 奈良一艘
 むさし
 まみどり
 吉松澄子
 小野五郎
 まみどり
 熊谷冬鼓
 むさし
 奈良一艘
 守田啓子

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

せつせつ昔話になる準備
 日替わりランチのように生きている
 夕焼けこやけ小豆弾けた帰ろうよ
 まっすぐな道はいやだと遠回り
 夕陽しぼりきるまでは生きろ生きろ
 カMEMシの侵入手腕に負けている
 産みたてのなまあたたかい神無月
 曼珠沙華体育座りで咲いている
 もの思う窓へいきなり黒揚羽
 頭頂の黒い蒸気に蓋をする
 ハンカチの角度小さな風興す
 どうしても蛇の道ばかり選ぶナビ
 吾亦紅似合う樂觀的鼻腔
 曼珠沙華のいわれ炒飯ばらばらに

まみどり
 城後朱美
 坂本清乃
 葉閑女
 きさらぎ彼句吾
 熊谷冬鼓
 守田啓子
 岩根彰子
 葉閑女
 達毘古
 岩根彰子
 柳本恵子
 守田啓子
 宮井いずみ

雨やどり貴方に似てるにわか雨

山頂で雲を食べてる夏終わる

予定には無かった妻の認知症

その男潮の匂いをかぎ分ける

さつきまでそこにいた妹の膝小僧

湯豆腐を田毎の月に分けている

【五客】

ひとつずつ橋を燃やしてここに来た

ウクライナでは空が強姦されている

アルデンテの Pasta と アナーキーな 臍 の ご ま

絵の中で足組み替えているおんな

蜘蛛の巣がおんなじ場所で待っていた

【人位】

素うどんがミニスカートをはいている

【地位】

横顔が雲によく似た大統領

【天位】

したがって蟬になることは止めた

♪ 一艘さんは「蟬」になるつもりだったのか…。

芝岡かんえもん
 渡邊こあき
 村上あつこ
 米山明日歌
 柳本恵子
 安藤なみ
 米山明日歌
 小野五郎
 奈良一艘
 岩根彰子
 熊谷冬鼓
 芝岡かんえもん
 小野五郎
 奈良一艘

川柳吟行会「ぽ」

課題『雲』

今回9月の吟行会の課題は「雲」である。秋空は雲の名前のオンパレードのよう。今回は会員全員参加の57句の「雲」の句を合評会参加5人で順番に発言しあった。最初の話題は筋斗雲か舳斗雲かの漢字表記のことであった。広辞苑では「筋斗」は載っているが「筋斗雲」は載っていない。どうやら中国の「西遊記」を模した漫画の「ドラゴンボール」では筋斗雲と表記されているようだ。だからだろうということになった。様々な雲が出てきたが平仮名表記か漢字表記かで句の印象が変わることも話し合った。一人吟行だった分それぞれの雲の見る時間帯、場所等が自由だったので発想が広がり、趣のある句に出会えた気がした。(文音)

【9点】特×2・佳×5

ひつじ雲だから一緒にいたわけよ

吉田州花

【6点】特×1・佳×4

いわし雲兵士千人戦意なし

吉見恵子

【さち】 本当にロシア兵が嫌気が差してきて撤退したらいいのにと誇ります。いわし雲にゆるく並んだ兵を見ました。【善江】 いわしの群れのような「いわし雲」。良心を持ちながら兵士になった者もいて戦場は地獄ですね。【州花】 ウクライナの兵士を見た気がした。【規子】 ロシア兵にしるウクライナ兵にしる本音ではもう殺したくも殺されたくもないだろう。【文音】 戦意がなくても自然に鯛雲も兵士も生まれてくるのでしょうか。今はロシアでもウクライナでも。鯛雲と漢字ならと思いました。

【5点】特×1・佳×3

日記から頭出してる積乱雲

小野五郎

【吉見恵子】 発想が面白い。日々の積乱雲からこの先雨になるかもしれない。【彰子】 一読、二読、様子が飛び出し迫ってくる。【規子】 夏休みの絵日記書く事が無い日は悩みの種だった。それでもまだ残してある8月を読み返してみよう。【文音】 日記から頭を出してしまった積乱雲。どんな表情を想像したらいいのだろう。戸惑いの句です。

【五郎】 ユーモアに溢れている。面白いドラマに仕上がった。【冬鼓】 ひつじ雲で人となり伝わるし、下5に腐れ縁ぼさや馴れ合いつぼさもあって愉快。【啓子】 ひつじ雲/だから・・・と読んだ。唐突な導入が面白い。【彰子】 何とも投げやりな物言い。が、愛がたつぷりある。【柳本恵子】 ひつじ雲はやさしい人みたいないメージ。【しんのすけ】 ドヤ顔で上から目線のタメ口が小気味良い。【こあき】 いやし系のどんな様なのでしょうか。ずっと仲良くして下さい。

【6点】特×2・佳×2

瓶詰の雲がだんだん増えている

笹田かなえ

【善江】 「瓶詰」で来たか！と楽しく鑑賞させていただきました。【こあき】 モヤモヤ雲もイライラ雲もみんな瓶詰にしちゃえ。【啓子】 不要だけどどうしても捨てられない物がある。「瓶詰の雲」がいい。【冬鼓】 瓶詰の雲の表現に衝撃。雲は保存というより捨てきれない想いか。

【4点】特×2

書割の東雲百頭目の蝶

岩根彰子

【かなえ】 寺山修司の舞台を観るような、艶やかで幻想的な世界を表出した作品に心から敬意を表する。【隆志】 書割の東雲とはちよつと古風ですが、百頭目の蝶が気に入りました。

【4点】特×1・佳×2

そのままに雲の行方と反抗期

吉田州花

【文音】 全体に読み取れなかった雲の句ですが、この句の雲の行方と反抗期を並べたところで私は納得しました。そのままがいいのだと。【朱美】 家出する17歳の次女を引き留めなかった。【柳本恵子】 いくつになっても反抗期 ありだと思えます。

【3点】特×1・佳×1

回覧板に従ってきたのは羊雲

熊谷冬鼓

【州花】 回覧板を持ってきた人の背に見えた羊雲。そんな絵を描いた。【達毘古】 コロナ禍の象徴？の回覧板の手渡しに羊雲、ポエジー。

飛行機雲真っすぐに生きるとは どんな 柳本恵子

【朱美】 まっすぐに生きるとは、自分の思った通りに生きることかな。宮仕えの身としては難しい。【さち】 風に吹かれてフニユッと消えた飛行機雲。答えは見つかりましたか。

この歳になるとはまさかほうき雲 滋野さち

【写生】 この歳まで生きてしまった驚きと恥ずかしさが、取っ散らかしたような収まりの悪いほうき雲と合っている。ホントいくつになっても日々「まさか」の連続だ。【五郎】 風景からの発想に人生を重ねて表現した。

【3点】 佳 x 3

B面に流すひここうき雲の白 須藤しんのすけ

【写生】 荒井由実の「ひここうき雲」をイメージするが「白」だとそのままというか弱いと思う。【隆志】 ひここうき雲の荒井由実の声が心に響きます。【いずみ】 青空に白い飛行機雲。清々しいB面になるだろう。

【2点】 特 x 1

ちぎれ雲おひとり様にすくなれる 小野善江

結果は異常なしだったが、私の肺にちらついたのは昔飲んだ雲だったかも。

強固なる殺意 夕焼けの乳房雲 小野五郎

【達毘古】 亡父は亡母の、私は亡母や妻のこの決意にやられてきた訳で。でも土偶から続く母性、救いの乳房でもある。その上、夕焼けの！

平坦な毎日 飛行機雲が二本 熊谷冬鼓

【啓子】 空を見る余裕がなかった頃がなつかしい。憧れの平坦な毎日。ハッピー。

【2点】 佳 x 2

一輪車ボクは筋斗雲だから 岩根彰子

【かなえ】 一輪車と筋斗雲がすごくよかった。パッと目に浮かぶ。【冬鼓】 一輪車のスピード感が伝わる。筋斗雲だからの言い切りもいい。

穏やかに逝ける気がする秋の雲 滋野さち

【吉見恵子】 秋の雲は軽やかで穏やか。いろいろと想像

【しんのすけ】 物理的には簡単そうだが、精神的・心理的にはどうだろう。この頃ひとりになりたい時が多くなった気がする。

入道雲に乗る夢ばかり嘘ばかり 城後朱美

【柳本恵子】 かなわない夢ばかり、コロナ禍ばかりじゃあないんだろうけど。

百円の柏手今日のうすぐもり 吉見恵子

【いずみ】 百円の賽銭ということは、特別にお願いしたいことがあるのだろう。「うすぐもり」というぴつたり措辞に着地している。

内ももに湿布ペタツと峰の雲 福田文音

【彰子】 腿の平仮名表記が何ともポツチャリして質感がある。湿布を貼るという行為は現実的。峰の雲に着地したところに意外性満載で愉しい作品。

誤飲した雲が悪さをしています 小野善江

【規子】 この夏のがん検診でやたらと時間がかかった。

を掻き立てさせてくれる。【しんのすけ】 春夏冬に比べ秋は天国に近いかも知れない。

どの雲も私を否定する九月 守田啓子

【朱美】 駄目だ駄目だと否定される方がいいかも。【達毘古】 私性句のはずが、今、雲は私以外も否定しているので、時事句。

にんげんが呼んでも来ない雲ばかり 月波与生

【吉見恵子】 ちょっと面白い視点。もちろん人間は自然を手懐けることはできなくて寧ろ、泣いているよね。【いずみ】 雲と猫は呼んでも来ない。こんな常識をわざわざ言うということは？

【1点】 佳 x 1

どこまでも青空いつまでもデニム

須藤しんのすけ

遅咲きの入道雲です私

笹田隆志

新牛蒡煮汁からめる雲がわく

福田文音

空爆のヒコーク雲を捕縛せよ

小野五郎

読み止しの文庫本から茜雲

熊谷冬鼓

結婚の日に雲凶鑑くれた父

宮井いずみ

雲行が怪しくなっても国葬

笹田隆志

秋晴れの昼間は雲も昼寝する

村井規子

十和田たてがみ川柳会九月句会

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・中村英三・村上昌子・力石俊一・高田幸柳
○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題 『直ぐ』 佐藤まさあき 選

【平抜き】

輪を抜けて直ぐに孤独の風に会う
世話焼きが直ぐに振ろうとするタクト
有る物で直ぐに作れる二、三品
頑張れよ無理するなよと直ぐやれよ
自立まで直ぐ少しづつ押す背中
選挙後は直ぐに風上立ちたがる
すぐにやれ今じゃ上司のパワハラに
すぐ足を洗って欲しいカルト教
すぐやる課上司もやれよ指示ばかり
直ぐ出ます出前のラーメン来やしない
【秀逸】
取りに行き直ぐに忘れてまた戻る
久保あざみ

木村奈生美
瀧尻 善英
久保あざみ
中村 英三
木村奈生美
瀧尻 善英
高田 幸柳
村上 昌子
中村 英三
力石 俊一

■宿題 『すつきり』 久保あざみ 選

【平抜き】

遺産分け済みですつきりした柱
朝シャンですつきりいいことありそうだ
やったぜい！急所に刺した捨て台詞
耐えてきた不満ぶちまけホーホケキョ
清張がいたらスパッと書く世相
えん罪の勝訴ころは青い空
デイの朝トイレ済ませて待つ迎え
ローン完済小さな幸実感す
耳鳴りにすつきり字幕付けて観る
毒を吐き帰る背中に塩をふり
下山後のコーラが好きな登山靴
ごめんなさい素直に云えてすつきりし
【秀逸】
断捨離ですつきりしたいゴミの山
友の霊拜んで帰る秋の空
【特選】
永田町ザブザブ洗濯してみたい
瀧尻 善英

磯島 雅男
斉藤 蛙井
瀧尻 善英
高田 幸柳
村上 昌子
瀧尻 善英
高田 幸柳
佐藤まさあき
磯島 雅男
高田 幸柳
城後 朱美
中村 英三
中村 英三
中村 英三

真っ直ぐが好きで曲がり忘れてた
【特選】
ママの手で撫でれば直ぐに立ち上がる
瀧尻 善英

■席題 『直ぐ』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

返信を直ぐに出来ない太い指
またこれか二人暮らして直ぐケンカ
すぐやる課上司もやれよ指示ばかり
くれるならすぐに行きますどこまでも
すぐ足を洗って欲しいカルト教
取りに行き直ぐに忘れてまた戻る
真っ直ぐな性格社では浮いてます
直ぐ忘れ行きつ戻りつりハビリだ
有る物で直ぐに作れる二、三品
頑張れよ無理するなよと直ぐやれよ
【秀逸】
国葬を検討せずに直ぐ決めた
真っ直ぐな線を棟梁カンで引く
【特選】
輪を抜けて直ぐに孤独の風に会う
木村奈生美

力石 俊一
久保あざみ
中村 英三
高田 幸柳
村上 昌子
久保あざみ
佐藤まさあき
村上 昌子
久保あざみ
中村 英三
佐藤まさあき
佐藤まさあき
佐藤まさあき

■宿題 『すらすら』 斉藤 蛙井 選

【平抜き】

すらすらと書けなくなった鬼あざみ
呆けてないすらすら嘘が云えてます
英字紙をすらすら読めた夢だった
英会話すらすら話す夢を見た
すらすらと書いた文章読めません
すらすらと書けば炎上SNS
ひらめきが寿限無寿限夢と解くパズル
よどみなく言葉が続くサザエ電話
すらすらと書いたつもりが誤字だらけ
パラリンで汚職してもしてないと
すいすいといかぬ道草だからいい
火事仕事スムーズだった青い空
暗算が早い卒寿の小商い
匙加減すらすら母の腕になる
【秀逸】
アイディアのインク流れるペンの先
すらすらと書いた名前に残る悔い
【特選】
すらすらとことが運んでいく怖さ
城後 朱美

久保あざみ
中村 英三
力石 俊一
久保あざみ
力石 俊一
磯島 雅男
瀧尻 善英
佐藤まさあき
中村 英三
久保あざみ
村上 昌子
木村奈生美
瀧尻 善英
木村奈生美
高田 幸柳
高田 幸柳
城後 朱美

□ 2022.11.23 尾張旭川柳会 創立 35 周年記念川柳大会

～大会のスムーズな進捗を図るためすべて事前投句とします～【課題と選者】(各題2句)共選『起』鈴木順子(豊橋番傘川柳会)・北原おさ虫(フェニックス川柳会)／『慣れる』堀内重紀(名古屋番傘川柳会)・猫田千恵子(川柳きぬうらクラブ)／『鈍い』原雄一郎(名古屋川柳社)・山下吉宣(岡崎川柳研究社)／『ときめく』やまぐち珠美(海老名川柳天馬)・荒川八洲雄(中日川柳会)／『自由吟』浅見和彦(尾張旭川柳会) 謝選【投句締切】10月31日(月)(当日消印有効)【投句用紙】所定の用紙(11月23日の披講・表彰式の出欠を明記して下さい)【投句料】¥1,000円(切手不可)【投句先】〒489-0031 瀬戸市五位塚町 11-329 青砥和子宛【発表】「川柳あさひ」12月号に掲載(12月初旬にお届け予定)※「川柳あさひ」12月号(創立35周年記念川柳大会号)と「35周年記念合同句集」を参加者に同送します。【披講・表彰式の日時】(マスク着用、アルコール消毒、検温等の感染対策の徹底をお願いいたします)令和4年11月23日(水)13時15分～16時【会場】尾張旭市文化会館「あさひのホール」(293席)【表彰】尾張旭市長賞、愛知川柳作家協会会長賞、中日新聞社賞、他【問い合わせ先】水野奈江子：電話 FAX.0561(54)5960・090(4855)4049 青砥和子：メールアドレス aoto11@gctv.ne.jp ※連絡があれば所定用紙を喜んでお送りいたします。【主催】尾張旭川柳会【後援】愛知川柳作家協会・中日新聞社

□ 2022.12.11 第6回 水の都まつえ川柳大会

【日時】令和4年12月11日(日)【場所】松江テレサ(JR松江駅前)松江市朝日町478-18 Tel(0852)31-5540【参加の方】①会場受付11:30～・出句締切13:00/②開場13:30/トークショー14:00～15:00/披講15:15～17:00会場は4階①受付・出句…研修室1②大会会場…大会議室(別会場になりますのでご注意ください)(第一部)60分トークショー～新家完司さんを切り刻む～(第二部)兼題『背』門脇かずお/『臆』真鳥久美子/『脳』平井美智子/『悪』新家完司/『情』樋口由紀子・事前投句(大会参加者のみ)『自由吟』石橋芳山(ご出席の方は専用はがき利用)(事前投句締切)令和4年11月10日(木)必着/参加料2,000円【投句の方】(投句締切り)令和4年11月10日(木)(当日消印有効)/参加料1,000円/1口(切手不可・小為替等で)【投句用紙】所定用紙(コピー・便せん等可)に住所・氏名・等記入の上下記へ【投句及び問合せ】〒690-0001 島根県松江市東朝日町206-7 石橋芳山迄(Tel 090-2003-5846)

◆十和田たてがみ川柳会11月例会案内◆

【時】11月19日(土)午前10時から【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『揃う』高田幸柳選／『そろそろ』木村奈生美選【互選】(一句詠)『ソファー』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】一題(三句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

■宿題『好き』 互選

- ① どうしても好きになれない舌鼓 高田 幸柳
- ② 好き嫌い触れて味わう夫婦茶碗 木村奈生美
- ② 好きというその一言が欲しかった 斉藤 蛙井
- ③ 人間が好きで川柳やつてます 佐藤まさあき
- ③ ホヤが好きになり大人と認められ 中村 英三
- ③ 好きですときつと言いますボケてから 村上 昌子
- ④ 化粧などいらぬ素顔の君が好き 瀧尻 善英

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから

■会費拝受【9月受付分】

中村誠子（弘前市） / 村井規子（大鰐町）

■おかじょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

..... 終着駅 Sin

◆先日、第35回津軽弁の日が無観客で開催された。「まんずふとくざり」（訳：とりあえず一区切り）というサブタイトルが付いたことから、長い歴史に幕が降ろされた。津軽弁の日は、津軽弁を使った詩、俳句、川柳、短歌、体験記の5部門での作品を公募して、優秀作品を毎年10月23日に発表、表彰するというイベントである。10月23日に、というのは、方言詩人の高木恭造の命日にちなんでいる。その、津軽弁の日で毎年のように入選していた、おかじょうき川柳社会員の三浦蒼鬼さんが、功労者のような形で招待され、いろいろ絡みもあったので、テレビ放映に映るかもしれないから、青森県民は楽しみにしてほしい。なんなら、ひとはさんも映るかもしれない。いや、ひとはさんのほうが映るかもしれない（笑）◆蒼鬼さんの川柳は、共感性を重視した柳風からも、津軽弁の日のような場合は合っていたのかもしれない。ずっと、審査員をしてきたが、他の公募作品と

はまた技術力が違うのは目に見えてだったが、それが大衆にちゃんと理解されるかは別問題だということも認識させられた。私は構成台本も担当していたので、毎年、作品の順番を考えるのだが、（これはウケるだろう）と思った作品を最後にしてみても、実際の会場の反応は予想通りにいかない経験が多い。とにかく、わかりやすく、比喩のない作品はストレートにウケるのだが、ちょっと気の利いた比喩を入れた途端に笑いが1テンポ遅れたり、全然ウケなかったりする。蒼鬼さんの作品でいうと、短歌で「婆ちゃど蠅 追って追らえて 命がげ 蠅取り紙さ 婆っちゃねばてら」は、わかりやすくウケもいいのだが、川柳で「我の住所 大字母ちやの尻の下」や「我ど同ず 香りこしてる落ざりんご」になると、どうも反応が薄く、もうちょっと反応があってもいいのになあと感じたことが多々ある。芸術性と共感性のバランスはどこまでも尽きない課題なのだろう◆ Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.11.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（1月号分）

【締切】11月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】1/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2022.12.03 おかじょうき川柳社 川柳忘年会 2022

【日時】令和4年12月3日（土）13時～【場所】リッチモンドホテル青森5階「ブリリアンテラス」（青森市長島1-6-6 Tel 017-732-7655）【参加費】4000円（句会・懇親会費）【席題】2題3句詠二人共選（題・選者は当日発表・出席希望の方は11/15までに熊谷冬鼓へ連絡）【連絡先】Fax 017-752-3759 ・メール toko@okajoki.com（懇親会は同会場の一次会のみとします）

□ 2022.12.14 「川柳吟行会 ぼ」12月句会

【投句締切】12月14日（第2水曜日）【題・投句数】『金』3句【合評会】12月21日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかじょうきに掲載。メール交換できる方ならおかじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2022.12.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句（2月号分）

【締切】12月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】2023/2/10発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

